

平成26年第1回蒲郡市地域バス協議会 議事録

- 1 日時 平成26年6月3日(火) 午後15時30分～17時00分
- 2 場所 蒲郡市役所 201会議室
- 3 出席者 委員 愛知工科大学自動車短期大学自動車工業学科教授 橋本孝明
委員 名鉄バス東部株式会社 富田尚之(代理 徳田裕二)
委員 大塚地区総代会長 大岡肖好
委員 三谷地区総代会長 伊藤政志
委員 蒲郡町部地区総代会長 石郷岡幸雄
委員 蒲郡東西北部地区総代会長 大場克海
委員 塩津地区総代会長 成瀬正明
委員 形原地区総代会長 天野忠則
委員 西浦地区総代会長 杉山林一郎
委員 蒲郡市身体障害者福祉協会 原田ます子(欠席)
委員 蒲郡市老人クラブ連合会 市川紀子
委員 蒲郡市社会福祉協議会 金原久雄(欠席)
委員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 林明子
委員 蒲郡市総務部長 井澤勝明
事務局 蒲郡市安全安心課長 藤川弘行
蒲郡市安全安心課長補佐 竹下暁
蒲郡市安全安心課主事 足立昌平

4 議題

- (1) あいさつ
- (2) 蒲郡市地域バス協議会について
- (3) 委員自己紹介及び役員の選出
- (4) 会議の進め方について

5 協議事項

- (1) 路線バスのルート等変更検討案について

6 その他

7 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が12名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域バス協議会設置要領第5条3項の規定により会議が成立することが事務局より報告された。

(2) 議題

ア あいさつ

- ・ 安全安心課長より、この協議会は「蒲郡市地域公共交通総合連携計画」に基づき、「既存バス路線の見直し検討」に向けた既存バス路線ルート等について再確認し、事業見直しの必要性について検討するため開催させていただいた。既存路線バスは、蒲郡市に限らず厳しい状況となっているが、車に乗れない方や外部からの観光客などにとって貴重な足となっている。より利用される地域の足となり、今後とも継続して運行していけるような路線バスにしていきたいとの挨拶があった。

イ 蒲郡市地域バス協議会について

- ・ 事務局より、資料 1 を用いて説明が行われた。

[質疑]

- ・ なし

ウ 委員自己紹介及び役員の選出

- ・ 委員自己紹介
- ・ 蒲郡市地域バス協議会設置要領第 4 条 2 項により、会長、副会長が委員の互選により選定された。

エ 会議の進め方について

- ・ 事務局より、会議の議事録は要点筆記とし、公開を前提とするが、発言者が特定されないように議事録には匿名で記載することが提案された。

[質疑]

- ・ なし
- ・ 事務局より本日の議事録署名人として 2 名の委員が指名された。

(3) 協議事項

ア 路線バスのルート等変更検討案について

- ・ 事務局より、資料 2 に基づいて平成 26 年度に検討する事項について説明が行われ、提案の 3 点に加え、公共交通全体についてを 4 点目として提案することで可決された。

[質 疑]

(委 員)

- ・ 既存のコミュニティバスの検討はどうなるのか。

(事務局)

- ・ 交通空白地でのフィーダー路線の検討は、形原地区をモデル地区として選択し議論している。
- ・ 地域内での移動を想定し、最寄りの駅や路線バスに接続することを前提としている。この地域バス協議会では特に議論しない。

(委 員)

- ・ ここで仮に結論が整理できた場合の次のステップを教えてください。

(事務局)

- ・ 地域バス協議会の上部組織として交通会議がある。この地域バス協議会の結論を、交通会議に報告し、交通会議で承認していただき、事業者と調整して事業見直しを行う。

(委員)

- ・ 市民の意見を確認することはしないか。

(事務局)

- ・ 市民代表と協議するため特に想定していない。見直し内容を3地区程度で説明会を実施する。全体計画は7カ年を予定しており、中間年度で評価し、変更すべきであれば、後期で変更対応していく。

(委員)

- ・ 右回りがあれば、左回りも欲しい。便数を増やして欲しい。市民アンケート等での意見によって見直ししていくのは短絡的ではないのか。利用実績などの数字の分析や、見直しした後の利用見直しなどの数字がなければ議論できない。
- ・ 蒲郡市の未来像、どんなビジョンとするのかわからない。そのための路線はどうなるのか。
- ・ 都市工学的に議論されているのではないか。理論的に、ルート、停留所を考えてほしい。

(委員)

- ・ 議論しなければならない点は確かに多い。そのため、上部組織の交通会議で、平成25年の1年間で指摘の点について議論し、市の公共交通の将来像を描く、地域公共交通総合連携計画を作成した。
- ・ その計画の中で大きな論点が2つあり、①既存のバスを見直すこと、②既存のバスが対応していない交通空白地をどうするか、2つの議論が必要であると位置づけた。
- ・ この地域バス協議会は、既存バスの見直しの議論をする会議であり、交通空白地は形原地区でモデル的に協議を始める考え。
- ・ 市の将来像は、昨年度議論している。事務局から地域公共交通総合連携計画については、次回報告させていただく。この会議では、既存バスの見直しについて検討させていただきたい。

(委員)

- ・ 昨年度の交通会議で、いろんな意見を頂戴し、まとめるのには苦労したが、総合計画の基本的な考えに基づいて、地域公共交通総合連携計画を策定した。
- ・ 既存の鉄道を維持し、既存のバスを維持するために見直しを行い、交通空白地域について対応する。交通空白地の検討は、協議ができる地区に手を挙げていただき、形原地区が選定され議論していただいている。
- ・ 事務局では、そうした経緯をふまえて、既存バスの見直しについては3点に絞り議論したいと提案していただいた。

(委員)

- ・ 年齢、職種、居住地などにより要望はさまざまであり、全てに応えるには膨大な費用になるが、夢を描いて良いのではないか。
- ・ 若者は移動の足を持っているが、足を持っていない地域にしぼりこんだ、夢のある交通として路線を見直したらどうかと思う。足の無い地域に、お年寄りに優しさをもった対応をすることが、蒲郡市の役目ではないのか。

(事務局)

- ・ 地域公共交通総合連携計画を次回配布させていただく。
- ・ 7年間の事業期間の中で、短期としてすぐにできること、中長期に対応することを分けて、計画を策定した。

(委員)

- ・ 昔は都市間輸送に対応していた。JRの利便向上と自動車交通の進展で、都市間輸送対応の必要が薄れ、地域内輸送の対応が中心となった。利用実績に応じて、見直しを行ってきた。
- ・ 路線バスの維持の難しさは、一旦変更してしまうと、かつての利用者の利用が戻ってこないという実態がある。先ほどの指摘も理解できるが、基幹的な路線バスを大きく転換するような見直しを、路線バスを無くして違うようなものにしてしまうと、現状の利用量まで戻らないと思う。

(委員)

- ・ 地域公共交通総合連携計画で定める2つの協議事項として、一つは、地元の人に手を挙げていただき交通空白地について議論するものと、資料2で示す、既存バスの見直しについての協議がある。ここでは資料2の議論を行う場で、資料2の3つの協議事項以外で、その他加えるべき視点について意見をください。

(委員)

- ・ 路線バスの運行について、夜まで走らせる必要があるのか。
- ・ オールラウンドではなく、フレキシブルな運行はできないか。

(委員)

- ・ 最終ダイヤを延長すると新たな利用が増えるという経験知がある。
- ・ 路線バスは定時で走っているということが必要で、時間が定まっていない、利用される人だけのために運行するのは、一般的に利用が減っていく。
- ・ フレキシブルな対応が必要であれば、民間の自主路線としてではなく、公共バスとして公的資金があれば対応できる。
- ・ 現状はどうやって乗ったら良いかわからないという人が多い。そのために、乗り方教室を開催し、また、ルートもダイヤもできるだけわかりやすくするために固定しておくというのが事業のポイントと考える。
- ・ 全く違う考えで、需要に基づいて自由に運行するという考え方もある。
- ・ どちらがよいか議論をしてもらい、最適なものを選んでもらえればと思う。

(委員)

- ・ 蒲郡は、自動車に依存したまちであり、バス事業は限られた場所・対象に重点的にすべきではないかという発想である。選択と集中であり、例えば、午前と午後で、ルート・ダイヤを分けて運行できないか。

(委員)

- ・ 地域としてこうしようということであれば、バスは走らせることはできる。

(委員)

- これまでのコンセンサスをふまえて議論を進めたい。
- 赤い電車は維持させたい。路線バスについても廃止させて見直すことは避けたい。
- 既存の路線バスの維持を目指し、利用促進のために見直しを進めることとしたい。
- 委員の指摘をうけて、路線バスの協議事項について、4点目に新たな協議事項を付け加えて、次回協議することとしたい。
- 4つ目の協議事項について事務局からの提案をお願いする。

(事務局)

- 既存路線バスのルート・ダイヤの大幅な変更の必要性について確認し、4つ目の協議事項について次回提案させていただく。

6. その他

(委員)

- 路線バスを昼間時間帯に利用した。6人の利用があったが、3人は市民病院を利用し、その他は病院以外の目的だった。病院利用だけでなく、買い物など日常の自由な利用ができる、路線バスを無くすようなことはしたくないと思う。

(委員)

- バスの維持に3,500万円支援している。もっと支援額を増やせば問題はないが、現状の水準で十分だろう。今のバスをなくしてはいけない。朝から夜まで、コンスタントに走る現状の形がよい。

(委員)

- 市民アンケート調査では、現状の3,500万円以上にお金を使えとは言っていない。

(委員)

- 問題は山間部の交通空白地だろう。

(委員)

- 交通空白地の問題は、形原地区をモデル地区として議論を進める考え。

(委員)

- 形原地区で議論されるのであれば良い。みんなが良いと思う交通は難しい。

- 事務局より、6月19日の第8回蒲郡市地域公共交通会議にて、今回の協議内容について報告させていただくことと、次回の会議の開催について連絡を行い会議は終了した。